平成24年 春の叙勲
第18回 危険業務従事者叙勲

4月29日に発令された、平成24年春の叙勲および第18回危険業務従事者叙勲の市内受章者を紹介します。

春の叙勲 瑞宝単光章（郵政業務功労）

くもん あきお
公文 章雄さん（65歳）
物部町庄谷相

公文さんは、昭和41年に旧郵政省に採用され、大阪・京都府内の郵便局で勤務されました。昭和56年からは土佐山田郵便局に配属となり、平成14年に退職されるまで、同局で郵便・貯金・保険の外勤業務を務められました。

熱心に取り組まれた郵便配達業務では、集合住宅の郵便受けには氏名表示がない上、入居者も入れ替わるため誤配達が多く、その対策として簡易表札を作って配布し、空き室の郵便受けにはテープを貼るなど、誤配達の防止に努められました。また、ポストの置いていない家にはポストを販売し、郵便環境の向上にも努められました。

公文さんは「仕事を通じ、いろんな人を知ることができた。退職後に勤めた大栃局の外勤業務では、地元物部町内を知ることができてよかった」と話されました。

危険業務従事者叙勲 瑞宝双光章（警察功労）

ひらやま しょうすけ
平山 彰祐さん（71歳）
土佐山田町岩次

平山さんは、昭和34年4月に高知県警に採用され、高知署、清水署などで勤務され、平成13年3月に高知警察署地域課警部を最後に退職されました。

平成5年4月から平成8年までは、大栃幹部派出所で所長として勤務されました。着任した年は4月に、物部村別役山山林火災が発生し、夏には土砂崩れにより、県道大豊物部線（物部町安丸）、国道195号崎山トンネル（物部町別役）が不通となった大変な年でした。

平山さんは「大栃在勤中は、地元の方に大事にしてもらった。山菜をもらったり、地域の方と飲みあかした楽しい思い出があります」と話され、夫婦で三嶺に登った思い出もあり、警察官としての勤務生活の中でも楽しく過ごせた3年間で、大栃を離れた後も当時を懐かしみ、湖水祭に訪れているそうです。

危険業務従事者叙勲 瑞宝単光章（消防功労）

こやま まさお
小山 昌男さん（66歳）
土佐山田町繁藤

小山さんは、昭和42年10月に土佐山田町消防団に常勤機関員として採用され、昭和43年の土佐山田町消防本部設置と同時に消防士となり、平成14年3月に山田消防組合を退職されました。

平成11年4月から平成14年3月までは、山田消防組合消防司令長・同消防本部消防長を務められ、消防行政に大きく貢献されました。

採用当時は職員定数4名であり、少人数で24時間勤務を回さなければならず、激務であったと当時の苦労を話してくれました。34年の勤務の中でも、いとこや同僚が犠牲となった繁藤災害は今も頭から消えることはなく、こうした災害について小山さんは「毎年日本全国のどこかで災害が起きている。災害を予知することは難しい。今まで起こらなかったから大丈夫という過信があるのではないでしょうか」と、防災・減災に向けて心構えの必要性を話してくれました。

香美市文芸 風の流れ

◆一般投稿作品◆　広報委員会　選

行く春や肩に帽子に桜散る　楮佐古きよ
初蛙土佐は広いよ西ひがし　福留とものり
山深きダム湖に垂るる藤の花　山崎　貴子
振り袖の娘の群れたるや立葵　森本　幸美
龍の髭児と作りし突き鉄砲　山﨑　寿美
大日様女池の空に鯉泳ぐ　坂本美智子
方便とゆう嘘もあり四月馬鹿　岡田美代子
花筏静かにダムへ漕ぎ出だす　北村千鶴子
道野辺に野いちごの花墓参り　有澤　春江
生籬の隙間うづめて迎春花　千頭　野草
花茣蓙に今日恙なき身をおきぬ　森本　純喜
初採りの茄子一夜漬食進む　高野　和一
肌寒き柿の木の下黄水仙　小野寺朱実
さくらんぼ色づきそめし小鳥の目　小原　景守
梅が香や小さき部屋に満々と　小原　子川

◆韮　句　会◆

春雷に岐の神の抱き合いて　公文　春紀
川渡る水道管や山笑ふ　岡本かほる
佛生会人も獣も生まれたる　高橋　　章
水車小屋朽ちたる峡や花ぐもり　明石ゆきゑ
還暦の子に耕しの手ほどきも　北村　幸子
満水のダム湖に垂るる藤の花　西川　常夫
虎杖や犬を相手の通ひ農　甲藤　卓雄
牡丹の崩るゝごとく散りにけり　國澤　　英
野焼果て午後の雨降る国分川　野崎　典子
リハビリの送迎バスや華鬘草　北村　里子
鐘かすむ農夫の背に夕日染む　小野川順子
水温む土をかき上ぐ耕運機　前田　芳子
一斉に飛び立つ構え鼓草　中内ゆかり
春昼の城址酒蔵望む町　竹内　ろ草

◆かがみ野俳句会◆

花筵胡坐の中の嬰笑ふ　佐竹　洋子
逝く春の兼山堰のとうとうと　佐藤　　幸
絵手紙に添えられし句の夕桜　利根　弘子
み仏の頬膨よかに桜餅　古川　信子
藍染めの暖簾かき分け遍路茶屋　小松　愛子
夜の音となりて田の水落ちにけり　中澤　美晴
背の丸き母の香のする桜餅　森本　倢代
残り香といふいとしさよ桜餅　山崎　鈴子
キャンペーンはリヨーマの休日万愚節　吉田　　芳

◆かほく俳句会◆

ひとひらが流れて動く花筏　乾　真紀子
満開の古刹の庭の花に酔ふ　奥宮さとみ
花筏千体流しつれづれに　黒岩　幸女
花明り寺の傘下の村富めり　黒岩千英子
山桜やなせたかしの出身地　小松　隆之
逆転に湧く歓声や初燕　小松　　完
活着に何の保証も無き接木　小松　　昇
山笑ふ出さうで出ない嚔かな　杉山　春萌
重ね着る肌さはさはと夜の桜　中山　咲子
仏生会ぬるめの酒が好みなり　野村　里史
青空に叛きて枝垂桜かな　前田　欣一
拘りの無き人生や桜咲く　前田　秀女
千体仏ましますす寺や花万朶　間崎　和代
手に載せて杣にんまりと初筍かな　森本　之子
雪洞の一つが外れ桜東風　山崎かずみ
離農してこれより余生初ざくら　山中　晶子
ばっさりと髪を落として夏近し　山中　瑞輝
一日の疲れのどっと春炬燵　山中　明石

◆土佐山田町俳句会◆

つちぐもり桃源郷となりにけり　明石　韮生
切り株をお膳がわりの花見かな　大石　邦男
咲き終えて山の樹となる桜かな　橋本　昭和
風になろうか蝶になろうか信濃川　安丸　槙子
蝶ちょうの赤ポストまで行くつもり　前田美智子
子の部屋の化石ことりと朧かな　森田　菊恵
紋白蝶閉ち込めしままドアーロック　前田　小夜
そよ風を翼に集め揚げ雲雀　森田　貞男
谷川の瀬音は高く藤の花　笹岡　英世
田植え待つ田の漣に鷺の立つ　中沢としみ
花は葉に影のざわめき始まれり　田村　一翠

今月のキラリ

花茣蓙に今日恙なき身をおきぬ

花茣蓙は草花などの模様を織り込んだイ草のゴザで夏の季語。ひと風呂浴びて花茣蓙にくつろぐとき、生かされてる喜びを実感するのである。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。（ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句（首）以内）
▼かい書で、住所・氏名・電話番号を必ず明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所記載不要）　FAX 53・5958